

『ファウスト』脚注の試み(6)

渡 辺 信 生

- 1010+ geht…weiter—weitergehen. Wagnern—Dativ. 語尾変化した古い形。
- 1011-21. ここから再び場面が変わる。農夫が登場する全場面と、Wagner が述べているセリフは、Vers 374-5 と矛盾するものではない。なぜならここで示された敬意を Faust が経験するのは、恐らく初めてなのだから。この敬意を彼は嘲笑として拒否せざるを得ない。Vers 1054-5. (H. Arens).
1013. O glücklich, wer—O wie glücklich ist derjenige, der…
1014. Vorteil—advantage. 利益。(Heffner).
1017. stockt—stocken=aufhören, sich zu bewegen. (Heyse). weilt—weilen=verweilen, stehen bleiben. (Fischer).
1019. Die Mützen fliegen in die Höh’—Zeichen des jubelnden Beifalls. (Heyne). ここでは帽子を頭上に放り投げてまた受け止め歓迎の意を表わすこと。Höh’—Höhe.
1020. wenig fehlt—es fehlt wenig=beinahe. この Vers は =Beinahe beugten sie sich die Knie. ほとんど跪かんばかりである。beugten—Konjunktiv II. 非現実話法。次行の käme も同じ。
1021. Als käm’ das Venerabile—Als ob das Venerabile käme. das Venerabile—die Monstranz mit der Hostie, der die Gläubigen durch Kniebeugung seine Verehrung (veneratio) bezeugen. (Trendelenburg). Faust は Wagner のおしゃべりには一言も答えない。
1022. Nur wenig Schritte noch hinauf—Nur noch wenig Schritte sind es bis oben zu jenem Stein.
- 1022-29. Faust は祈りや断食をしてペストを止めるよう、神に強制することができると思っていた。ここになぜ Faust が信仰を失ったのかという最初の暗示がある。それは神に対する誤解した関係と、自己の信仰と力の過大

評価であった。従って最初から Faust に欠けていたものは、謙讓の美德と呼ばれるもの、即ち、絶対者の意志に服従する覚悟であった。何一つ動かすことのできなかつた信仰、愛、希望を、彼はそれから呪うようになるだろう。Vers 1604f. (H. Arens).

1026. ここで Faust が如何なる信仰を失ったのかが明らかになる。即ち、神の存在の信仰ではなくて、神と人間との関係の可能性の信仰を失ったのである。(K. Heinemann).
1028. Dacht'—Dachte. Pest—18世紀の語法では、しばしば全伝染病の総称。(G. Erler).
1029. erzwingen—これはヤボクの渡して、ヤコブのヤーヴェとの格闘としてリアリスティックに表現されているように、信仰の魔術的な部分なのである。創世紀32, 25-33. (C. Endres).
1030. Der Menge Beifall—Der Beifall der Menge. wie Hohn—ペストに対する医者としての治療がいかに無意味であったかを Faust は知っている。(C. Endres). Vers 1030は、Vers 1054まで取り扱われ、それからVers 1055でもう一度まとめられているテーマである。(H. Arens).
1031. könntest—Konjunktiv II. 非現実の願望。lesen—次の2行が補足語。
1033. Solch eines Ruhmes—wertの補足語。Genitiv. gewesen!—gewesen (sind)!
1034. ein dunkler Ehrenmann—ein in bescheidenen Verborgenheit lebender, unberühmter Ehrenmann. (K. Schröer). od. Er war zwar ein ehrlicher Mann, aber seine Arbeit bewegte sich in dunklen Regionen, nämlich in der Alchimie. (E. Trunz). に代表される二通りの解釈がある。
1035. Der—関係代名詞。先行詞は、ein dunkler Ehrenmann. Vers 1038のDerも同じ。ihre heil'gen Kreise—die heiligen Kreisläufe der Natur. Die verschiedenen Gebiete bewegen sich im Kreislauf von Entstehen und Vergehen. (K. Schröer).
- 1036f. Er sann in Redlichkeit—d.h. mit aufrichtigem Streben nach Erkenntnis, aber mit grillenhaften Mühe, d.i. nicht methodisch, sondern nach willkürlichen Einfällen und Voraussetzungen, daher auch fruchtlos bemüht. (K. Schröer).
1038. Gesellschaft von Adepten — die in die tiefsten Geheimnisse ein-

geweihten Alchimisten. (Buchwald). Gesellschaft—Dativ.

Adepten—Adept. lat. adeptus, der etwas erreicht hat, so hießen die Eingeweihten der Goldmacherkunst. (K.Schröer). 錬金術師。

1039. die schwarze Küche—錬金術師たちは自分たちの Laboratorium (実験室) をこう呼んだ。schwarz—magisch. Schwarzkünstler=Zauberer=Alchimisten. (Fischer). Vers 6678-80 : geschwärzt vom Ohre bis zur Nasen, die Augen rot vom Feuerblasen. (C.Endres). schloß—(ein)schließen. sich in et⁴.(ein)schließen.

1040. Rezepte—どうしたら Gold ができるか等の処方箋。 (K.Schöer).

1041. Das Widrige—互いに結合し難い相反撥する物質。 (E.Trunz).

1042ff. この Vers 以後は、Gold, Gewandtheit, ewiges Lebenをもたらしすべき Stein der Weisen を調合する錬金術師たちの努力を、詩的なヴェールで覆いながら描写している。Laboratorium (schwarze Küche)の中で、赤身がかった Quecksilberoxyd 赤色酸化汞(Leu)と白い Salzsäure 白色塩酸(Lilie)とが、生ぬるい湯に入れられて、適度の火にかけられ化学的に結合させられる。(男と女が、王と王妃が結婚するように) それから両者は一緒により強い火にかけられて、一つの Retorte (Brautgemach)から他のRetorte へと次々に追い立てられる。固形の物質が絶え間なく気化するうちに、フラスコの壁に虹色の沈澱物が附着する。(bunte Farben). この過程全体の成果が、jüngfräuliche Erde (Leu 王と Lilie 王妃の娘である die junge Königin)と見なされて、病気をなおす力があると認められていた留出物なのである。世界苦的な気分浸っている Faust は、勿論失敗だけしか考えない、そして意図は最善のものであったけれども、自分や父の医者としての努力の中に毒殺しか見ていない。(Reclam).

ein roter Leu—Leu, lat, leu=Löwe. 錬金術の用語で rötliches Quecksilberoxyd od. Gold のこと。男性の生殖原理と見なされた。(G. Erler). ein kühner Freier—ein roter Leu のこと。

1043. Im lauen Bad—das laue Bad は次行の offenes Flammenfeuerと共に錬金術の手続きにおける原料のさまざまな加熱の度合いを表わす。(C. Endres). Lilie—weiße Salzsäure od. Silber に対する錬金術の用語。女性の生殖原理の象徴。(G.Erler). der Lilie=mit der Lilie.

1044. beide dann……gequält—beide (warden) dann……gequält.

1045. Brautgemach—Retorte. フラスコ。(G.Erler). ins andere—ins andere (Brautgemach).
1046. bunte Farben—Regenbogenfarben und Purpur. (E.Schmidt).
1047. die junge Königin—Gold, Gesundheit, ewiges Leben を与えるという der Stein der Weisen のこと。万能薬。(G.Erler). 錬金術の文献では、König が普通で、Königin は珍しい。(E.Trunz).
1048. die Arznei—ArzneiよりArznei od. Arz(e)ney の方が多く用いられている。(Goethe Wörterbuch). Panazee (万能薬) という名前は、医学を体現するギリシャの女神 Panakeia (=Allheilerin) と結びついている。(C.Endres).
1050. Latwerge—spätlat. electuarium. あらゆる成分を濃く煮つめた Heil-saft. (E.Beutler).
1053. den Gift—古くは女性名詞。ゲーテは時折男性として、後には中性としても用いている。Vgl. Vers 1986. (E.Schmidt).
1054. Sie—前行の Tausende. もし Tausende が若い医者 (Faust) の訪問のあと、全員死亡したのなら、限られた農夫たちにおいても、Faust の献身的な活動に対する信仰は生じ得なかったであろう。…… Faust のこうした性急な否定的誇張は、一時的にバランスのとれた心の状態が、またしても消えてしまったことの徴候である。(H.Arens).
1055. lobt—Vers 995ff. に対する言及。(C.Thomas).
1056. Euch darum betrüben—sich über et. betrüben. あることを悲しむ。
- 1056-63. Vers 570ff. におけるように、Wagner は人類の進歩をモットーとする自己満足の啓蒙主義哲学者を代表している。(C.Thomas).
1057. Tut……genug—genug tun. 十分にやる。続く 2 行の zu 不定句が補足語。brav—rechtschaffen, wacker. 誠実な。(Fischer).
1058. die—関係代名詞。先行詞は Die Kunst. これは ausüben の補足語。
1059. pünktlich—genau, ordentlich. (E.Trunz).
1064. O glücklich, wer …… O wie glücklich ist derjenige, der …… hoffen—次行の zu 不定句が補足語。
- 1064-67. 相続して得た知識は、遺産の家具同様、利用することのできない厄介な重荷である。役立つと思うのは Irrtum である。瞬間が必要として創造するものだけを、人は利用することができる。Vgl. Vers 685. 従って誰でも自分自身の衝動を追い求めて、必要とあらば限界を跳び越えるがよい。

(Trenderenburg).

Faustの思いは偉大な導入部の独白の Pessimismus に戻って行くが、これは心理学的には極めて興味深いものである。しかしすばらしい自然のために十分展開されるに至らず、魂と宇宙との一致に終わる Faust のみごとな Sonnengesang に道をゆずる。(C.Endres).

- 1068-9. laß uns……nicht verkümmern! 損なわないようにしましょう。laß——命令法。uns——Dativ. einem etwas verkümmern——ihm den Genuß einer Sache stören, verderben. (Heyse). dieser Stunde schönes Gut——das schöne Gut dieser Stunde. Gut——blessing. 天の恵み。(Heffner).ここで Faust と Wagner は Vers 1023 から休んでいた石から立ち上がる。(Düntzer).
1070. Betrachte——命令法。Abendsonneglut——Abendsonnenglut.
1072. Sie rückt und weicht——Die Abendsonne geht unter. (K. Schröer). der Tag ist überlebt——der Tag ist vergangen. (Grimm). überleben——zu Ende führen. (Fischer).
1073. Dort——Im Westen. sie——Abendsonne. eilt…hin——hineilen.
1074. O daß kein Flügel……—O wie schade, daß kein Flügel…….
1075. Ihr nach und immer nach zu streben —— Ihr nach-und immer nachzustreben. kein Flügel の附加語。Ihr——Abendsonne を受ける sie の Dativ. etwas³ nachstreben. ある物を追い求める。
1076. Ich sah'……—Dann sähe ich……. sähe——Konjunktiv II.そのときは……が見えるだろうに.im ewigen Abendstrahl——stets in der warmen, ruhigen Beleuchtung des Abends. (Witkowski).
1077. zu meinen Füßen——あとに liegen を補う。
1078. Entzündet alle Höhn——alle Höhen wären entzündet. beruhigt jedes Tal——jedes Tal wäre beruhigt.夕方の影の中で沈黙している谷。(C.Thomas).
1079. Den Silberbach——fließen の主語。大河は日光を多量に反射するので golden に輝き、反射の少ない小川は逆に silbern に見える。(C.Thomas).
1080. hemmte——Konjunktiv II.非現実話法。そのときは妨げはしないだろう。göttergleich——godlike, divine. 神のような、神聖な。(Heffner). den göttergleichen Lauf——den Flug, der durch nichts gehindert wird. (Düntzer).

1081. mit——を持った。次行の mit も同じ。
- 1082-83. tut…sich…auf——sich auf tun. 現れる、見えてくる。mit erwärmten Buchten——春の太陽の熱で、浅い海の入江はすでに暖まったのであろう。(C.Thomas).
- 1084-89. die Göttin——die Sonne. (E.Trunz). 太陽が海に没するので、もはや Faust には太陽を追い求めるのは不可能に思われる。だが水平線の(現世の)境界を越えても、太陽を追って永遠に飛翔し続けようという新たな衝動が今や目ざめる。そして太陽を追跡することによって、彼は常に光を前にし、闇を、太陽から見捨てられた地方を背にする。このことは現実的にも象徴的にも理解されなければならない。(Witkowski).
1086. eile fort——fort eilen. , ihr ewiges Licht zu trinken——, (um) ihr (der Sonne) ewiges Licht zu trinken.
1087. このVers のあとに habend を補う。次行も同じ。通俗的な表現がここでは意味深く象徴的に用いられている。Vgl. Vers 6806. (R.Petsch).
1089. indessen——美しい夢を見ているうちに。sie——die Sonne.
- 1090-91. zu des Geistes Flügeln wird …… sich gesellen —— kein körperlicher Flügel wird sich so leicht zu den Flügeln des Geistes gesellen. sich zu et. gesellen—— 一緒になる、道ずれになる。
1092. es——次行の Daß 文を受ける。jedem——jedem Menschen. eingeboren——Faust の思い違い。例えば Wagner がそのように生まれついてはいないのは確かである。(C.Endres).
1094. Raum——Himmel. verloren——verschwunden.
1095. schmetternd——schmetternd (es). schmettern——mit starker, erschütternder Stimme singen. (Heyse). さえずる。=aus voller Kehle singen.
1096. schroff——rauh und steil, zerklüftet, zackig, jäh. (Heyse). 険しい。Fichte の生えた険しい山。
1097. ausgebreitet——die Flügel ausgebreitet.
1098. Flächen——Felder, Ebenen. 平野、野原。
1099. Nach der Heimat streben——der Heimat zustreben. =in die Heimat zurückkehren. Vers 1097 の schwebt との押韻のため strebt にしたもので、別に急いでいるわけではない。
1101. Solchen Trieb hab' ich——hab'=habe. 感情が太陽を追って上へ前へと

突き進む衝動。(Vers 1093). Wagner は Sachwissen と Erkenntnis の源泉に到達して (Vers 563), 自分の領域で到達し得る知識をすべて集め、その意味で一切を知ろうとする衝動としてこの衝動を知っている。(Vers 601). しかしそれは精神的なものにのみ向けられていて、彼の最高の精神的感覚的な喜びもそこから湧き出ている。(Vers 1107). Natur, Menschen, Spiel に対する平凡な官能の喜びを彼は知らない。Wagner は完全に自分自身と一致している。(H.Arens).

1102. Mann—Wir, Der Mensch. 一般的な意味。 sich an et.³ satt sehen
——見飽きる。
1103. Des Vogels Fittich werd' ich—den Fittich des Vogels werde ich.
1106. Da—Dann.
1107. Ein selig Leben—Ein selig(es) Leben. wärmet—wärmt.
1108. entrollst du gar ein würdig Pergamen—wenn du ein würdig(es) Pergamen sogar entrollst. 貴重な古文書をひもどきさえしたら。Pergamen—Pergament. Vgl. Vers 566. だがここでは討論全体が、はるかに暖かく格調高く且つ穏健になされている。(R.Petsch). Pergament の写本のこと。書き写して伝えられた古代のTextと考えられる。(E.Trunz). Reim のために Pergamen を用いたのであろう。(C.Endres).
1109. steigt…nieder—niedersteigen.
1110. sich³ et² bewußt sein—あることを意識している。des einen Triebs
——アクセントは einen にある。(R.Petsch).
- 1110-17 Mephisto は Vers 304-305において、この二つの衝動について述べている。Faust はこの二つの衝動が両立しないことを感じている。Faust にあって Wagner にはない衝動は、普遍的な認識と洞察を求める衝動、神のようになるという衝動である。この衝動は、明確には表現できないもの、即ち、自然環境の背後にある真実、人知の範囲内では不可能なことがらの成就を想像する Faust の能力に基づいている。これは天才の衝動であり、大地に根ざした人間の本性によって失敗に終わるものである。それは Faust がしばしば感じている飛行の願望に示されている。この人知の範囲内では不可能なことを求める衝動は、この世を去った偉大な精神的な人々の住家である、"zu den Gefilden hoher Ahnen" (Vers 1117)のもとへ飛行しようとする衝動によって象徴されている。(Heffner).

1111. lerne……kennen——duに対する命令法。kennenlernen. den andern——den andern (Trieb).
1112. ここは再び Mephisto が Faust の第二の自我にほかならないことが暗示されている重要な箇所である。個人における二つの本性の戦いは、Faust 神秘劇の本質的な内容である。ゲーテはVers 1118ff. で示されているように、これから起るべきことを、心理的に巧みに導入している。(C.Endres).
1113. Die eine…… von den andern——Die eine (Seele)…… von der andern (Seele). Vgl. die eine……die andere.この Vers の意は：Die beiden Seelen streben auseinander.
- 1114-5. derber Liebeslust——gross amorous desire. (C.Thomas). 激しい愛欲。この Liebeslust を”Lust zur Liebe”と理解しても、それまでのFaust には無縁のものである。(H.Arens). sich an et⁴ halten——sich an et⁴ festhalten. die Welt——Erde. (H.Arens). Organen——übertragen auf die Werkzeuge, die Fähigkeit des innern Lebens, des Denkens und Empfindens. (Grimm). od. Organen der Seele. (H.Arens).
1116. Die andere——Die andere (Seele). vom Dust——engl. dust. aus dem Staub. 比喩的な意味で Niedrigkeit. (C.Endres).
1117. hoher Ahnen——hervorragender Männer der Vorzeit. (Fischer). od. höherer geistiger Wesen, mit denen der Mensch verwandt ist. (Düntzer). 昔のすぐれた精神的な人々の(住む領域)。Ahnen=Vorfahren.
1118. O gibt es Geister in der Luft——O wenn es Geister in der Luft gibt. 2行下の So と呼応する。Geister in der Luft——この霊は人間の生活に干渉する Elementar(Luft-)geister で、hohe Ahnen とは無関係である。(Witkowski).
1119. Die——関係代名詞。先行詞は前行の Geister. weben——wirken, tätig, lebendig sein. Auch die Bedeutung ”schweben” mischt sich ein. (Grimm).
1120. steigt nieder——steigt nieder. Geister に対する命令法。niedersteigen. ゲーテはここで3人称の Geister に、2人称に対する命令法を用いている。これは破格構文の例で、Faust が興奮し始めたことを示すためにゲーテによって用いられたものである。(Heffner). od. nieder のあ

とに、Ihr Geister, を補う。aus dem goldnen Duft——aus dem durchsonnten Luftraum. (Schröder). Duft——Dunst. (E. Trunz).

1121. führt……weg——命令法。wegführen. 新しい華やかな地上の生活への熱望という Faust の心境の変化と、Elementargeister に対する呼びかけが、Mephisto に対する契機を与える。(H. Arens).

1122-3. wäre nur ein Zaubermantel mein——wenn nur ein Zaubermantel mein wäre. trüg' er mich in fremde Länder!——wenn er mich in fremde Länder trüge! er——der Zaubermantel. 両文とも Konjunktiv II. 非現実の願望文。～であればよいのだが。Flug に対する Faust の強い憧れが、Mephisto の Zaubermantel によって実現されてからは (Vers 2065-6)、Faust は Flugerlebnis を一言も語らない。(H. Arens). 特に Zaubermantel は、すでに犬の姿をして近づいている Mephisto に対する誘いの言葉になっている。(Reclam).

1124-5. Mir——私にとっては。Sollt'——Sollte. Konjunktiv II. 売られるべきではないであろう。er——der Zaubermantel. um——引き換えても。= für. feil——verkäuflich. Nicht feil um einen Königsmantel sein——um einen Königsmantel nicht feil sein. この Vers の意は：wenn ich den Zaubermantel besitzen würde, würde ich diesen nicht für die köstlichsten Gewänder, auch nicht einmal für einen Königsmantel verkaufen (eintauschen).